



地域包括支援センター(高齢者総合相談窓口)
/ 知立市 - 輝くまち、みんなの知立 -
www.city.chiryu.aichi.jp

新しい 認知症観

認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。

これまでの考え方

- ☐ 他人ごと、目をそらす、問題を先送りする
- ☐ 何もできなくなる、わからなくなる
- ☐ おかしい言動で周りが困る
- ☐ 周囲が決め、本人は支援される側
- ☐ 認知症は恥ずかしい、隠す
- ☐ 地域で暮らせない

認知症が進行し、危機的な状況になって入院や施設へ入所する

変わる！

これからの考え方

- ◆ わがこと(自分ごと)、向き合う、備える
- ◆ わかること、できることがたくさんある
- ◆ 本人は困っている、本人なりの意味がある
- ◆ 本人が決める(決められるような支援)、本人は支え手でもある。「ともに」支え合う
- ◆ 認知症になっても自分らしく
- ◆ 地域の一員として暮らし、活躍する

初期段階で早期診断・対応を行い、自宅での生活をできるだけ長く送れるように！

愛知県 近藤 葉子さん



51歳のときに若年性アルツハイマー型認知症と診断された名古屋市の近藤葉子さん。現在は週3日、市内のデイサービス「とんと」OHANAに通いながら、講演活動、認知症カフェでボランティア活動、交流会への参加など、認知症理解のための活動に積極的にに関わり、社会とのつながりに生きがいを感じる日々をおくっています。

*インタビュー動画(下段参照)

【認知症観の違い 苦しむ当事者の声】

- ◆ 周りの人の認知症へのイメージと自分自身の状態にギャップがあり、生きる自信を失ったり、社会的に孤立してしまう。
- ◆ 「認知症になると何もできなくなる」と考える周りの人たちから、買い物や外出などをしないように言われ、本人の意思にかかわらず行動を制限されてしまう。

「認知症をひとくくりにするのではなく、その人自身をみて、状態に応じてできる工夫と一緒に考えてほしい」

認知症の人たちの声



全国の認知症の人の様々な生き方を描いた短編動画「希望の道」をみてみよう！

「希望の道」—認知症とともに生きる—

<https://nakamaaru.asahi.com/nakamaaru/extra/kibounomichi/>

厚生労働省HP





9月は認知症月間です



図書館イベントは
3年目の開催となりました。
認知症に関して知っている方も少しずつ増えてき
ているのではないかとおもいます。

認知症は誰もがなり得ることであり
決して、めずらしいことではありません。
図書館イベントを通じて、認知症について
知ってみませんか。



【上映映画】



お終活 再春！人生ラプソディ

【上映日時】 ※上映時間120分

- ① 9月10日(水) 14時～
- ② 9月13日(土) 10時～
- ③ 9月13日(土) 14時～

【上映場所】

図書館2階 視聴覚室

【脳健康度チェック】

「タブレットを活用！」



※希望者多数の場合
全員実施ができないことがあります。

【開催日時】

- ① 9月10日(水) 14時～15時30分
- ② 9月13日(土) 10時～11時30分
- ③ 9月13日(土) 14時～15時30分

【実施場所】

図書館1階 展示コーナー内

《認知症についての展示》

図書館1階 特集コーナー、展示コーナー



イベント期間：8月29日（金）～9月16日（火）

知立市東部地域包括支援センター

TEL:0566-82-8855
(FAX: 0566-83-4070)
場所:知立市ハツ田町泉43
(知立市福祉の里ハツ田内)

担当エリア
小学校区

*知立小学校 *来迎寺小学校
*ハツ田小学校 *知立東小学校

知立市西部地域包括支援センター

TEL:0566-81-8880
(FAX:0566-83-7776)
場所:知立市長篠町新田東11-32
(ながしのの里内)

担当エリア
小学校区

*知立西小学校 *猿渡小学校
*知立南小学校